

よもやま歴史教室2019

さまざまな歴史を学習することにより、心に栄養を与え、豊かに生きるヒントをみつけていただきたい。
そんな思いを込めて、今年度も歴史教室を開催します。皆様、ぜひご参加ください。

第1回 5月18日(土) 午後2時

菰野藩士の江戸参勤とくらし

～龍崎守道日記から～

ふじたに あきら

三重県総合博物館 藤谷 彰 先生



第6回 12月21日(土) 午後2時

新しい天皇の在り方

～皇位継承儀礼から見る～

京都産業大学法学部 准教授

くれ あさお

久禮 旦雄 先生

第2回 6月15日(土) 午後2時

長篠・設楽原の戦いと人々

～戦いはいかにして現代に伝えられたのか～

ごとう ゆうや

長篠城址史跡保存館 後藤 悠也 先生

第7回 1月18日(土) 午後2時

神社ってどんなところ？

～神社(神道)の歴史的推移と暮らしとの関わり～

國學院大学 研究開発推進機構

日本文化研究所長 教授

ひらふじ きくこ

平藤 喜久子 先生

※第3回は台風により、10月12日(土)午後2時に延期

第4回 9月21日(土) 午後2時

明智光秀と大河ドラマ

歴史工房 歴史研究家

あけち けんざぶろう

明智 憲三郎 先生

第8回 2月15日(土) 午後2時

世界史のなかの戦国大名

～天下獲りレースでない戦国時代相～

名古屋学院大学国際文化学部 教授

かげ としお

鹿毛 敏夫 先生

10月12日(土) 午後2時

人道作家・瀬田栄之助の半生

～幻の作家の実像に迫る～

しみず まさあき

作家・郷土作家研究家 志水 雅明 先生

第9回 3月21日(土) 午後2時

日本古代の移民と文化

～百済・高句麗遺民の動向を中心に～

愛知県立大学日本文化学部 教授

まるやま ゆみこ

丸山 裕美子 先生

第5回 11月16日(土) 午後2時

幕末の日本を指導した、津藩儒

齋藤拙堂の人物と業績

～玄孫が語る拙堂の今日的意義～

齋藤拙堂研究家・文学博士

さいとう まさかず

齋藤 正和 先生

※  マークは、郷土関係のお話です。

※講演内容等は、予告なく変更となる場合がございます。

※菰野町よもやま歴史サークルの秋季研修は、
10月30日(水)松阪・玉城方面 予定です。
詳しくは、サークル会員にお尋ねください。

【会場】 町庁舎4階会議室

【受講料】 各回 ¥200 (高校生以下は無料です。)
(当日の受付時にいただきます。)

第4回 ●9月21日(土) 会場:町庁舎4階会議室

演題:『明智光秀と大河ドラマ』

講師:歴史工房 歴史研究家 あけち けんさぶろう 明智 憲三郎 先生

1947年生まれ慶應義塾大学大学院工学研究科修士課程修了。三菱電機株式会社に入社。本能寺の変の調査、研究を続け、「歴史捜査」と名付けた工学的手法によって、その全貌を科学的、論理的に解明した。2012年5月からは「歴史工房」を主宰して真実普及のための執筆・講演活動を精力的にしている。明智光秀の子、於菴丸(おづるまる)の血筋を引くと伝えられる。



○講演要旨○ 明智光秀の出自、前半生は歴史学会では研究が進んでおらず、不明とされているが、不思議なことに歴史学者の認める定説が存在している。それは、江戸時代に書かれた軍記物『明智軍記』である。しかし、この内容を裏付ける史料は存在しない。光秀にかかわる当時の史料を精査し直した結果、定説とは似て非なる史実が明らかになった。どうして、このような定説ができてしまったのか。2020大河は『明智軍記』再演のようだ。「ここは違う、あそこも違う」と言いながらテレビを見ましょう。

●10月12日(土) 会場:町庁舎4階会議室

演題:『人道作家・瀬田栄之助の半生 ～幻の作家の実像に迫る～』

講師:作家・郷土作家研究家 しみず まさあき 志水 雅明 先生

1950年四日市市生まれ。愛知県立大学卒業と同時に四日市市役所に勤務。その間、四日市熟年大学及び四日市大学講師(各10年間)を務めるかたわら、「四日市市史」「菰野町史」「多度町史」「楠町史」の文芸部門を担当執筆。現在、日本文藝家協会会員、四日市地域ゆかりの「郷土作家」顕彰事業委員会会長、中日文化センター講師ほか。



○講演要旨○ 若き日の瀬田栄之助は戦前、四日市の捕虜収容所で通訳をしていた。英米の捕虜たちの人権を擁護し、職務以外でも食糧調達、慰安行事などに心を砕く。その一つが、捕虜たちによる音楽演奏だ。風雲急を告げる戦時下、「捕虜に、敵国人である彼らに、慰安とはなんたることだ！」と上官に叱咤されながらも、ペルリオーズ「幻想交響曲」ほかの演奏会を実現する。瀬田は戦後、平和を標榜する人道的な小説、評論を次々と発表した。今ではほとんど読むことができず、幻の作家となっている。

第5回 ●11月16日(土) 会場:町庁舎4階会議室

演題:『幕末の日本を指導した、津藩儒 齋藤拙堂の人物と業績

～玄孫が語る拙堂の今日的意義～』

講師:齋藤拙堂研究家・文学博士 さいとう まさかず 齋藤 正和 先生

昭和5年三重県津市に生まれる。大羽根園在住。昭和28年神戸大学経済学部卒。平成13年まで四日市倉庫(現日本トランスシティ株式会社)に勤務。退職後、名古屋大学大学院に学び、平成24年文学研究科博士課程後期修了。拙堂の玄孫にあたる。



○講演要旨○ 江戸時代末期、津藩校督学であった齋藤拙堂は、当時日本を代表する学者文人であり、『月瀬記勝』などの名文で有名であったが、今日の我々は彼の名文から学ぶだけでなく、拙堂が当時の大飢饉や西欧列強の脅威から如何に日本を守るかを真剣に研究し、政策を示して国や藩を指導したことに、大いに学ぶべきであろう。特に彼は、武士即ち、役人は庶民を労るべきだと強調しているのである。

第6回 ●12月21日(土) 会場:町庁舎4階会議室

演題:『新しい天皇の在り方 ～皇位継承儀礼から見る～』

講師:京都産業大学法学部 准教授 くれ あさお 久禮 旦雄 先生

昭和57年大阪府生まれ。平成16年同志社大学文学部卒。平成18年同志社大学大学院文学研究科博士前期課程修了。平成23年京都大学大学院法學研究科博士後期課程修了。日本学術振興会特別研究員、三重大学等非常勤講師、(公財)モラロジー研究所研究員を経て、平成30年4月より現職。平成31年4月より京都宮廷文化研究所代表理事。



○講演要旨○ 約30年ぶりの代替わりを迎えて、今年の4月には新元号が発表となり、5月には剣璽等承継の儀と改元とが行われ、新天皇の御代が始まりました。秋には即位礼・大嘗祭が行われます。これらの皇位継承の儀礼は、それぞれに来歴があり、その時代ごとに継続の努力が行われ、また、時代の状況にあわせてさまざまな試みも行われてきました。今回は、上記の四つの儀礼、祭祀を中心に、歴史上のさまざまなエピソードを交えて解説し、日本の歴史における皇室と皇位継承儀礼の意義を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。